

蓮田市地震ハザードマップとは？

地震ハザードマップについて

平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災以降、近年では、平成16年10月の新潟県中越地震、平成19年3月の能登半島地震、平成19年7月の新潟県中越沖地震など、大地震が頻発しています。また蓮田市においても首都圏直下型の地震など、大地震発生の高い可能性が指摘されていて、ひとたび地震が発生すると被害は大きくなるものと予測されています。

この地震ハザードマップは、地震が発生したときの震度予測や避難所など災害時に必要な情報を記載したものです。日頃から地震に対する認識を深め、備えていただくことにより、災害時の被害を最小限にすることを目的として作成しました。地震発生時に、予想された状況が実際に起こることを示すものではありませんが、情報を提供することによって、市民のみなさんの防災意識の向上に役立てていただければ幸いです。

揺れやすさの危険度マップについて

地図に表示された予想される揺れは、蓮田市内在る50m×50mの網目に分け、大地震が発生した場合に予想される揺れをあらわしたものです。蓮田市への影響の大きいと考えられる東京湾北部地震・茨城県南部地震・綾瀬川断層による地震の予想される揺れの最大値をあらわしています。

いざという時の地震災害に備え、自宅や職場などで予想される揺れを確認しておきましょう。

震度6弱 立っていることが困難になる。窓ガラスや壁のタイルなどが破損し落下する。

震度5強 非常な恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。壁に亀裂が入ったり、重い家具や自動販売機などが倒れる。

液状化の危険度マップについて

蓮田市の液状化危険度を予測したものです。A～Dの4段階であらわしています。赤が最も液状化の危険度の高い地域で、緑が危険度の低い地域です。

液状化とは、地下水に満たされている砂の地盤に強い地震の動きが加わると砂が液体のように動く現象で、建物などに被害を及ぼします。

蓮田市
液状化危険度
(4段階)



地域の危険度マップについて

揺れやすさの危険度マップに示す地震が発生した場合に、蓮田市内在る建物が全壊する被害率をあらわしたものです。

建物全壊倒壊率とは、地震によって建物が全壊する被害率を50m×50mの網目ごとにあらわしています。凡例の0.1～0.5%とは、50m×50mの網目の中で全壊する可能性のある建物が0.1～0.5%あることをあらわしています。

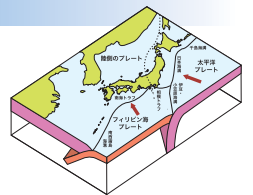
※色のない部分には建物がないか、又は全壊する可能性のある建物が“0.1%未満”ということです。

※地震発生時に表示された状況が実際に発生することを示すものではありません。また、地震の震源・深さ・規模及び地震発生時の自然条件によって、図上で危険が少ないと考えられる地域でも、危険な状況となることも考えられます。

※建物の構造(木造・非木造)ごとに築年数を3段階に分け算定しました。

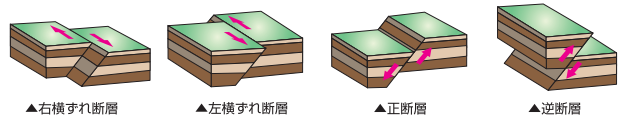
地震の起こるしくみ

日本は、「陸側のプレート」と「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」の境界に位置しており、地震が多く発生する国です。地震の起こり方は、大きく「活断層地震」と「海溝型地震」の2種類に分けられます。



「活断層地震」

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることでひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面に境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

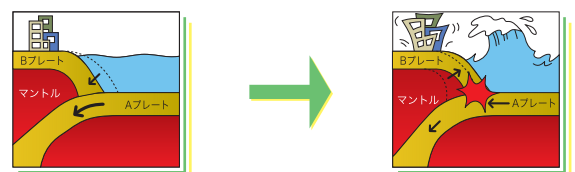


「海溝型地震」

海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで、境界にひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときにプレートが元に戻ろうとしてね上がり、地震が起こります。「太平洋プレート」と「フィリピン海プレート」は年間数cmの割合で「陸側のプレート」にもぐりこんでいます。

【震度とマグニチュード】

地震のエネルギーの大きさをマグニチュードと呼び、地面が揺れる大きさを震度と呼びます。マグニチュードが大きい地震でも、震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さくなります。マグニチュードが1増えると地震のエネルギーは約30倍になります。したがって、マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の約30倍ものエネルギーをもった地震であるといえます。



蓮田市内在る建物全壊倒壊率

